
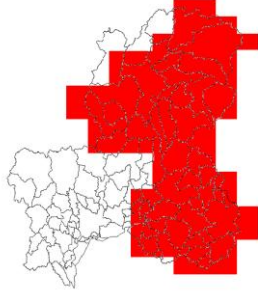


マツムシソウ		<i>Scabiosa japonica</i> Miq. var. <i>japonica</i>	準絶滅危惧
			マツムシソウ科
選定理由	かつて見られた多くの生育地が急激に減少し、個体数も大きく減少しており、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。		写真(高橋弘)
形態の特徴	1年草(越年草)。茎の高さは40-80cm。大部分の葉は羽裂して、中部と下部の葉では裂片が更に羽裂するが、羽裂しない鋸歯縁の葉もある。花は淡青色。頭状花序周辺の小花は特に外が側の花冠裂片が大きい舌状花、内側小花は花冠裂片が小さくて同形の筒状花。雄蕊は4本。萼の裂片(萼刺)は針状で長さ2-6mm。日本に固有で、北海道から九州に分布する。岐阜県では県北と県南東部の標高400-1600mに見られる。		
生態的特徴	日当たりのよい草原や林縁に生育する。花期は8月-10月。		
分布状況	日本に固有で、北海道から九州に分布する。岐阜県では県北と県南東部の標高400-1600mに見られる。		
減少要因	開発による生育地の破壊、草原などの草刈りや火入れをしなくなったこと、山草愛好家による採取などが考えられる。		
保全対策	草地の維持と採取の禁止。		
特記事項			
参考文献			

文責:高橋弘